

歌を楽しむお年寄りたち＝姫路市大塩町、しおさき
ヴィラ



懐メロが呼び覚ます記憶と機能

姫路の施設で音楽療法

高砂の姉妹 痴ほう症の高齢者に

姫路工業大環境人間学部講師で声楽家の桑田陽子さん。高砂市阿弥陀町に週一回、妹と、姫路市内の介護老人保健施設で音楽療法に取り組んでいる。

桑田さんが会長を務める高砂音楽家協会は一九九九年十一月から、姫路市大塩町の介護老人保健施設「しおさきヴィラ」で月一回、音楽療法を実施している。「かわりを深めたい」と考えた桑田さんが同協会会員で妹の松嶋充代さん。高砂市北浜町に声をかけ、今年二月から、同協会とは別に、姉妹二人で音楽療法を始めた。

場所は同施設で、週一回開催。痴ほう症のお年寄りらが十五人ほど集まる。桑田さんが、季節の話を盛り込み、お年寄りたちと一緒に童謡や民謡、「懐メロ」を歌い、松嶋さんがキーボードで伴奏。歌に合わせて足や手を使う動作も取り入れている。スタッフも一緒に歌ったり、お年寄りに声をかける。

一人ひとりの身体、精神状況に合わせて声を掛けながら進めるといふ桑田さん。「音楽の力を実感している。研究を重ね、さらに良い方法を目指したい」と話しており、成果を九月に日本音楽療法学会近畿学術大会で発表する。